

マダバ

2022-1 次隊 岡崎 友里

マダバの魅力を伝え隊！①



ここです

私が暮らすマダバ県は、たくさんの魅力があります！中でも、世界的にも有名な教会やキリスト教徒にとって聖地と言われる場所があり、イスラム教徒がほとんどのヨルダンでマダバにはキリスト教徒が多く生活する理由があるのです！これまでまだ詳しく紹介していませんでしたので、今回は、マダバの街や教会、ぜひ訪れてほしい場所について紹介します。

いざ書くとなると、魅力がありすぎて1回では収まりません…そのため、濃縮して数回に分けてなんとかお伝えしていきます。

まずは、マダバ県の中心街、観光客が多く訪れる場所から紹介します。私が生活しているのもこの周辺で、活気があり、生活に必要なものが揃うのはもちろん、おしゃれなカフェ

やレストランもあります。観光客が多く訪れるのは、やはり、教会！見どころは、モザイク画です。

モザイクとは、小さな欠片を寄せ集めることで絵や図、模様を表す装飾美術の技法のことです。材質はさまざま、石やガラス、貝殻、木などを使い、壁や床、工芸品に飾りを施します。歴史は古く、また世界各地で見られたため、たくさんの宗教画や幾何学模様などの作品が残っています。初めてモザイクと聞くとモヤモヤとした、曖昧でぼやけた作品を想像した人もいるかもしれませんが、そのイメージとは異なる繊細かつ巧みな技術による装飾です。

「聖ジョージ ギリシャ正教会」



壁や柱の至る所にモザイク画が飾られ、一つ一つ石の色や大きさ、並べ方によって細かい部分まで精巧に作られています。

そんな教会で、観光客が見つめる先は…床なんです！床には約1500年前の6世紀ごろの中東の地図がモザイクで描かれています。当時、教会の床を飾るモザイク画は、一般に都市や大きな建物を絵画的に表現しているものが多かったのに対して、このモザイク地図は珍しく一帯を上空から見下ろした構図で描かれています。



また、エルサレムにあたる場所に描かれた建物を実際に特定できたほど、正確な地図としての価値も持ち合わせています。1884年に所々破損した状態で発見され、現在は推測される大きさ15.6m×6mの約4分の1部分を鑑賞できます。





「観光通り」

レストランやお土産屋さんがずらっと並び、生絞りのザクロジュースが飲めるお店やマダバならではのモザイク画のマグネットや小物入れ、アクセサリーを取り扱うお店もあります。次の観光地までの移動に活躍するのが茶色のレンガ。これをたどって歩くと、別の観光地にたどり着けます。



「洗礼者聖ヨハネ ローマカトリック教会」



先ほどの教会から歩いて約15分のところにあります。より建物が大きく、内部の雰囲気も異なります。そして、おすすめの見どころは、教会の上下！下ると地下通路に地下室、井戸跡など、教会の下にこんなにも広い空間があったのかと驚かされます。また、鐘のある塔の階段を上ると、マダバの街を展望できます。ここから眺める景色が大好きで何度訪れても心が穏やかになります。



階段を下ると...



階段を上ると...



マダバは別名「モザイクの街」と呼ばれるほど、モザイクがとにかく有名です。ただ、今回はここまで...！次号でさらにその魅力について詳しく紹介していきます！

←この木、何の木？

実際にモザイク画作りに挑戦？！→

Let's talk in Arabic!

のスペースがなくなりました...また次回！



教会のいくつかの地下室には、モザイク画が展示されています。



مع السلامة



يادبا!



2022-1 次隊 岡崎 友里

マダバの魅力伝え隊！②

今回は「モザイク画」について、ぎゅぎゅっと内容を絞りつつも、じっくりと紹介していきます！

さて、私が暮らすマダバは、モザイクの街として有名です。「モザイクって何？」については前号 (No.43) を参考にしてください。簡単に言うと、小さな破片を組み合わせて、いろいろな絵や図を作り上げていくのです。世界には様々な材質でのモザイクによる芸術作品があります。中でも、マダバでのモザイク画に使われている材質は、「石」です！石を一体どうやってあんなにもきれいな絵や図にしていくのか…その作り方についてもお伝えします♪



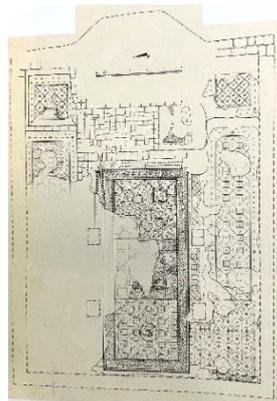
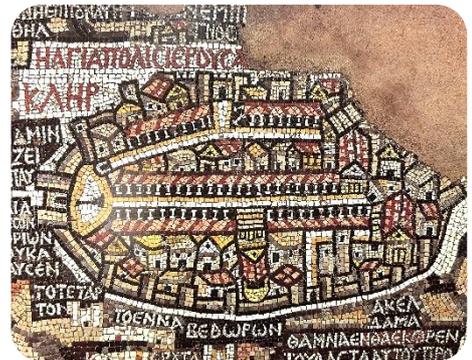
ではまず、モザイクというのはいつからあるのでしょうか？

モザイクの歴史

モザイクのはじまりはとてとても古く、紀元前3000年、今から約4000年前（日本は縄文時代くらい）にさかのぼると言われています。最初は自然の石を使っていたとされ、時代が進むにつれて石を削ったり切ったりする加工技術が広がることで、より複雑で細密な表現が可能になったと言われています。そのため、何（題材）をどのように表現しているか（表現方法）によって制作された時期を推測することができます。



4~6世紀にかけて、キリスト教の広まりとともに、教会が多く建てられるようになり、キリスト教を主題とするモザイク画が作られるようになります。前号で紹介した教会のモザイク地図もこのころ制作されたものとされています。また、このころのモザイク画はローマ時代のスタイルから徐々に異なる独自のスタイルへと確立した時期でもあります。それまで補強も兼ねて床へ施されていたモザイクが、壁（壁画）へと施されるようになり、表現の舞台も変わっていきます。そして、当時主流だった大理石からズマルトと呼ばれるモザイク用に製造された色ガラスや金箔を混ぜた石に変化し、現代にも続くスタイルが確立されました。



しかし、現代に至るまでにイコノクラスムという「偶像（宗教上の象徴物、イメージやモニュメント、または政治的なモチーフなど）を壊すこと」を行う人々が現れ、歴史的モザイク画が破壊されるという時代を経験し、衰退した時期もありました。発見されるモザイク画に破損が見られるのは、風化や浸食だけではなく、破壊されたという背景も考えられるのです。にもかかわらず、1000年以上経った今も当時とほとんど変わらない制作技法と技術が受け継がれているのですから、驚きです。



ヒタームさん



モザイク画作りにハマリ、工房へ通っているうちに仲良くなりました。アラビア語やイスラムの文化について教えてくれ、その他のごとも色々相談ができる友達です。

さて、そんなモザイク画、私も挑戦しました！教えてくれたのは、ヒタームというこの道20年の職人さんです。正直、「石を切って埋め込むだけでしょ。パズルや貼り絵みたいにすぐできる。」と思っていたら…大間違い！！まずは石を切るところから一苦労…石の種類によって硬さが異なり、硬度の高いものは一つのパーツ（テッセラと呼ばれる四角い小片）を切り出すのに手が痛くなりました。そして、切り出したテッセラを並べていくのですが、これがまた難しく、隙間のできないように敷き詰めたいのに、なかなか思い通りの形に石を加工できず、ぴったり埋まらないのです…。見かねたヒタームが「こうやってこうやって…」と爪を切るかのようにパチンパチン石を切ると、ちょうどその空間に入る形になっているのです。さすがの職人技に脱帽です。

せいさくほうほう 制作方法

準備：完成予定の図や絵を左右反転させ、布に転写しておきます。

①細長い棒状に加工

された石を専用の道具で切ります。

②切り出した欠片を接着剤で布に貼りつけます。

③枠の大きさや形に合わせて石を可能な限り隙間がないように敷き詰めます。

④枠にセメントを流し込み、布のある方が上になるように、ひっくり返してはめ込みます。

⑤布の上から水を含ませたスポンジで優しくこすり、接着剤を溶かして石から布をはがしていきます。

⑥布が無くなった面を平らにし、セメントが乾いたらニスを塗って完成です。

※制作方法はいくつか種類があります。



ヨルダンを訪問する時は、モザイクを体験しに私の工房へ来ててください♪

マダバで一番安い価格で提供します！



この木、何の木？マダバの木！

「マダバ」という街の名前の語源は、アラム語（シリア語）に由来し、「ミア ダビア」という2つの言葉で構成されていました。1つ目が「水」、2つ目は「果物」を意味します。（※ヨルダン内務省ホームページより）かつてのマダバは豊かな土地、水に恵まれ、ザクロやぶどうと言った果物が豊富に実っていました。その木々をモザイク画で表現したのが「マダバの（ザクロとぶどうの実をつけた）木」というわけです。今では土地が乾いてしまい、昔の街の姿からは変化しましたが、「マダバ」と呼ばれる所以がモザイク画として形に残っています。



接続に使う文字

ميا دابيا

読み：アビア 読み：ミア
意味：果物 ↓ 意味：水

مادبا

読み：マダバ

Let's talk in Arabic ♪

今回紹介したモザイク…アラビア語で言ってみましょう♪ちなみに、調べてみると、モザイクの語源はギリシャ神話の9人の女神ムーサイ（Mousai）にあるそうです。ラテン語で「オプス・ムシウム（opus musivum）」から派生してフランス語のモザイク「mosaique [mozaik]」、そして英語へと広く浸透したようです。（※フランス語はラテン語が変化してできた言語だと言われています。）

気になるアラビア語の表し方は、右のようになり、「フセーフサー」と読みます。最初聞いたときに、フランス語や英語とはかけ離れているじゃないか!!と正直驚きました。そして、なかなかこのアラビア語が覚えられないときに「モザイク」と言って通じることがありました。「じゃあ、もうアラビア語じゃなくてもいいじゃん。」と思ったそこのあなた！「ヤッラー！」を読んでくださっているからこそ、せっかくならアラビア語での言い方をぜひ覚えてほしいのです。そして、ぜひ使ってみてください！

فسيفا

読み方：フセーフサー

では、また次回! مع السلامة



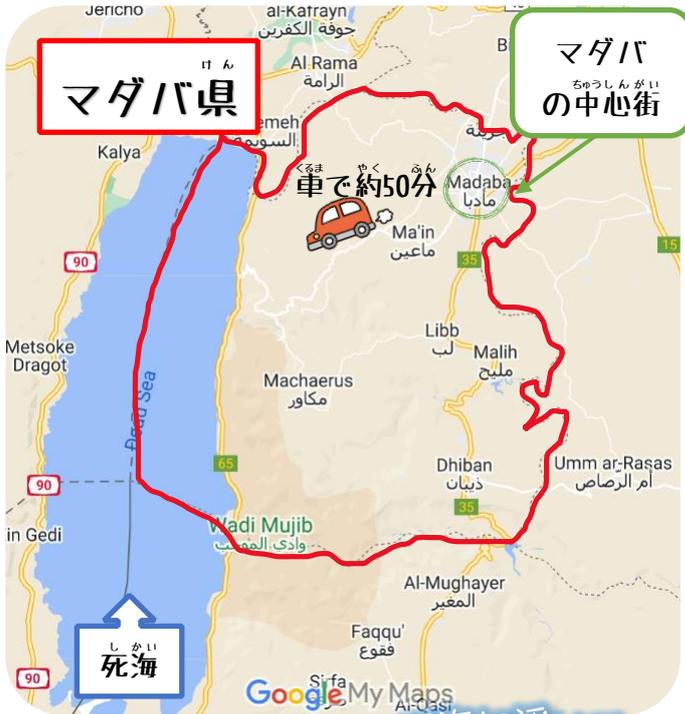
! يلا



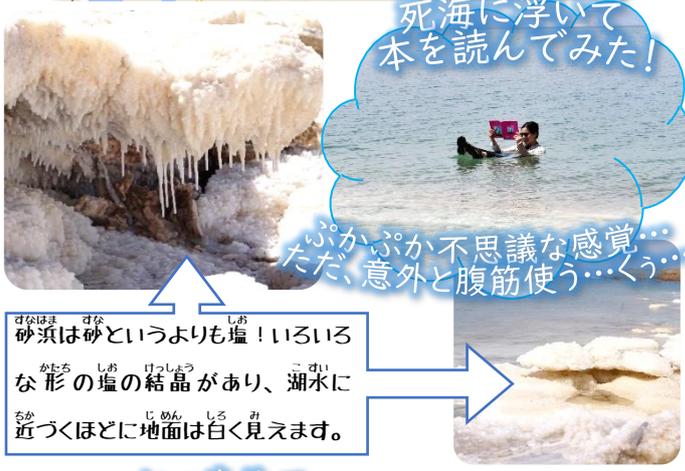
2022-1 次隊 岡崎 友里

マダバの魅力を伝え隊! ③

マダバへ行ってみたい! と思う人が増えていけば嬉しいです♪ さて、今回はさらにその気持ちが高まること間違いなし! 中心街からは少し離れますが、あの有名な場所ってマダバ県だったの?! そんな場所を紹介します!



死海は、名前に海と付くものの、実は湖。ヨルダン以外に西側はイスラエルと接しています。海拔（海水面から測った陸地の高さ）が地表で最も低い -433 m に位置しています。もともと周囲の土壌に含まれていた塩分が雨によって溶け出し、川の下流の湖で濃縮された結果、この塩湖ができたと考えられています。冬でも 20℃ 以上と非常に高い気温と年間降水量 50 mm ~ 100 mm と極端に少ないため、湖水の蒸発が水分供給を上回る状態にあり、海水の塩分濃度が約 3% なのに対して、死海の湖水は 33% という約 10 倍の塩分濃度となっています。この高い塩分濃度のため、湖水の浮力が大きくなり、人が沈むことが困難な「浮かんで本が読める」湖として有名です。生き物が生きていくには不向きな環境のため、魚などの生存が確認されておらず、死海という名前の由来も納得できます。もちろん私たち人間も、皮膚の弱い人には湖水は刺激が強いです。長時間浸かると肌が赤くなったり、自に入ると痛みが伴ったりします。飛び込みや泳ぐことは禁止されています。



砂浜は砂というよりも塩! いろいろな形の塩の結晶があり、湖水に近づくと地面は白く見えます。



コーヒーを片手に死海に沈む夕陽を眺める現地の人に遭遇! 優雅

ただ、死海周辺から採れる塩分やミネラルを多く含んだ泥は泥パックとして美容に効果的と言われ、その他にも泥や塩を使った石鹸や化粧水などが人気のお土産になっています。

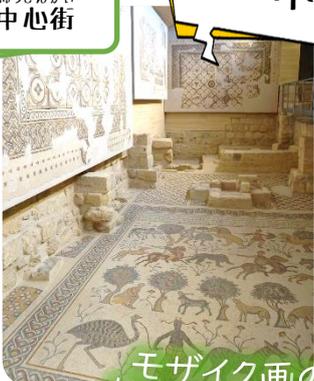




車で約15分
マダバの
ちゅうしんが
い
中心街

ネボ山

「ネボ山」



モザイク画の展示もあり、
教会としての礼拝する場所も
あります。

当時、扉として
使われていた石は押しでも
びくともしませんでした。



し
かい
死海



ネボ山は、標高約800mの山で、周囲は何もない荒野が広がりますが、旧約聖書における預言者モーセのゆかりの地として有名です。

山頂には、フランチェスコ会によって建てられた教会があり、4世紀~6世紀の異なる年代のモザイク画や天然石を掘って作られた当時の墓を見ることができます。また、ネボ山の象徴といえる、イタリア人の芸術家によって製作された十字架に青銅の蛇が巻き付いた記念碑があります。



さて、預言者モーセとは、一体何をした人なのでしょうか…。
モーセは、ユダヤ教やキリスト教の聖典である「聖書」に登場する聖人です。旧約聖書には、モーセが総勢300万人のイスラエル人をエジプトから約束の地「カナン」まで率いたことが記されています。約束の地を目指して約40年間荒野で生活をしながら、



道中様々なことが起こります。中でも有名なのは、神様の助けによって、追ってきたエジプト軍から海を割って道を作って逃げたことです。耳にしたことがある人もいかもしれません。そして、シナイ山という場所で神様ヤハウェから10個の決まり事が刻まれた2枚の石板を受け取ります。この啓示は、「モーセの十戒」と言われ、今でもユダヤ教徒やキリスト教徒の人たちの間で生き続けています。そして、モーセは、このネボ山頂上からついに約束の地を目にするのですが、モーセは、目的の地を目の前にしながらも120歳で亡くなり、お墓がどこにあるのかは、わかっていません。その後は、後継の指導者ヨシュアによって旅は続き、彼らは最終的に約束の地へたどり着きます。

「モーセ洗礼の地」



そんな聖書に登場する聖地の一つとして、2000年には当時の教皇ヨハネ・パウロ2世が訪問し、「平和の象徴」であるオリーブの樹を植えました。2009年には、当時のバチカン市国の君主でありカトリック教会最高位の教皇であった教皇ベネディクト16世が訪れてモーセのように山頂からエルサレムを眺めました。

驚きなのは、イスラム教の聖典「コーラン」にもムーサーという名前が登場し、3大宗教共通する聖人ということです。キリスト教徒にとっての聖地かと思いましたが、実際にイスラム教徒の人も訪れているのを目にしました。

さらに近くに、モーセが洗礼(全身か頭部を水に浸して、身を洗い清め、キリスト教徒となるための儀式。)を受けたという場所もあります。荒野の中にぽつんとある水の湧く場所で、不思議で神秘的な気持ちになります。ぜひ行って見て下さい。

まだまだ紹介しきれない場所が多数ありますが、マダバ紹介編はここで、一区切りです。

そして、安定の **Let's talk in Arabic** のスペースがなくなりました…また次回!



مع السلامة